

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)	平成23年度 第2回 川西市社会教育委員の会		
事 務 局 (担 当 課)	教育振興部 社会教育室 (内線 3421)		
開 催 日 時	平成23年5月25日(水) 10時00分～11時58分		
開 催 場 所	市庁舎 202会議室		
出 席 者	委 員	生田議長、佐道副議長、小柳委員、末澤委員、安藤委員、 岡田委員、田中委員 計7名	
	そ の 他		
	事 務 局	牛尾教育振興部長、中塚総務調整室長、石田学校教育室長 松田教育支援室長、谷社会教育室長、渡瀬中央公民館長、 宮脇生涯学習センター所長、山元こども・若者政策課長、 金淵こども・若者政策課主幹、片山主任、藤巴主事 計11名	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0名
傍聴不可・一部 不可の場合は、 その理由			
会 議 次 第	1. 開会 2. 前回会議録の承認 3. 報告事項 (1)各協議会の会議報告 4. 議題 (1)年間研究テーマの設定について 5. その他		
会議結果	別紙のとおり		

審 議 経 過

議長	<p>皆さん、おはようございます。</p> <p>本日は、お忙しいところ、第2回社会教育委員の会にご出席いただきありがとうございます。</p> <p>ただ今から、第2回の社会教育委員の会を開会いたします。</p> <p>まずはじめに、本日の委員の出欠についてであります。渡邊委員、岸本委員と上西委員から欠席の届出がございます。他の委員は全員出席であります。</p> <p>◎会議に先立ち、市民から要望のあった傍聴者への会議資料の提供について協議の結果、個人情報等で公開できない資料等もあり、今後は傍聴者閲覧用として会議資料を配備することが確認された。</p>
議長	<p>それでは、事務局から、ご挨拶をいただきます。</p>
事務局	<p>— 教育振興部長の代理で、社会教育室長が挨拶 —</p>
議長	<p>それでは、会議に入ります。</p> <p>2の「前回会議録の承認」についてであります。</p> <p>事務局において調製し、その写しをお手元に配布しておりますので、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>先月27日に開催されました平成23年度第1回の会議録について、明申し上げます。</p> <p>お手元の会議録の写しをご覧いただきたいと存じます。</p> <p>会議録につきましては、1ページには会議日程や出席委員などを記載いたしております。また、2ページ以降につきましては、会議次第にもとづきご審議いただきました経過等について調製させていただいております。</p>
議長	<p>説明は終わりました。</p> <p>ただ今のご説明について、何かご質問等はございませんか。</p> <p>(発言なし)</p>
議長	<p>特に、ご質問もないようですので、前回の会議録をご承認いただいたものといたします。</p>

議長	<p>次に、3番目の報告事項に入らせていただきます。 前回から1ヶ月経ちましたが、この間に開催されました協議会や委員会がございましたら、各委員さんからご報告をお願いします。</p> <p>(発言なし)</p>
議長	<p>特に、開催された協議会等がないようですので、報告事項はなしということで、次に移りたいと思います。</p>
議長	<p>次に、4番目の議題に入っていきたいと思います。 1番目の「年間研究テーマの設定について」であります。 前回、テーマにつきましては、「学校・地域・家庭をつなぐ社会教育のあり方」ということに決定いたしました。 それで、議論の進め方ですけど、議事録の最後の方にもまとめてますように、非常に大きなテーマでありますので、論議が進めにくいというのが事実でございます。それで、サブテーマ的に、的を絞って、今回進めていけたらと思います。 この会は、独任制の会でありますので、それぞれ皆さん方の、いろいろな経験、あるいは所属されているところの団体等を含めまして、そういう知恵を出し合った形で意見交流をして、行政当局、あるいは民間の諸団体等に対して、発信が出来たらいいなというような位置づけの中で、今日のサブテーマの協議に入れさせていただけたらと思います。 前回、宿題のような形にしておりましたが、それぞれ意見をおっしゃっていただけたら、そしてまとめていけたらというように思っております。 何かございませんか。</p>
D委員	<p>前回、会議だけではなく、社会教育委員の会で、何か出来たらいいなと申しあげたんですが、何が出来るんだろうと思って考えたんですけど、具体的には分かりませんが、この会は家庭教育と生涯学習をコーディネートしていく会かなと思ったんですけども。サブテーマとして、きっちりと、こうというのは言えませんが、青少年育成を含めた家庭教育、それから生涯学習について考えたり、何かコーディネート出来たらいいなと思っています。</p>
議長	<p>学校教育はどういう位置づけとお考えですか。</p>
D委員	<p>学校教育も、放課後子ども教室と学校支援事業がされてます。もちろん、それも大事で、それと協力していける形の家庭教育です。別々ではなくて、放課後子ども教室があつて、それから学校支援地域本部があつて、それと一緒に出来る家庭教育がいいなと思いまし</p>

	<p>た。別じゃなくて。</p> <p>学校教育の方は教育委員会があるので、この社会教育委員の会では、別々じゃないんですけれども、家庭教育かなと思ったんです。だから、別々じゃなくて、もちろん、一緒にしていくんですけれども、視点というか、学校は教育、家庭は家庭。</p>
議長	<p>学校教育は教育委員会があるから教育委員会の方で。</p>
D委員	<p>それは、もちろん教育委員会なんですけど、もちろん一緒に手を携えていくんですけれど、教育委員会が学校教育かな。それから、家庭教育とか生涯学習については、この社会教育委員の会で検討とか、コーディネートしていったらいいのかなと思いました。</p>
E委員	<p>私は、全く逆のような気がする。生涯教育というのは、はっきりいって大人なんです。だから、しっかり、ものの考え方があって、それなりに立派にこなしていっておられると思うんです。</p> <p>私は、学校教育で、先生方が、“こういうふうに動いていただいたら、一番、助かるんだな”ということを出してもらって、それをテーマにしたらいいのになと思ったぐらいなんです。</p> <p>大変難しい社会教育の中で、学校教育が、いま一番悩んでいるところではないかと思うんです。その一助となればなと思うのです。しかし、先生方は、こんなことを家庭で、社会でしてくださったら本当に助かるんだけどなということ、なかなかおっしゃらない。個人的に、“あるでしょう”と聞いたら、“あるんですけどね”とおっしゃってましたよ。本当はあるんだけど、なかなかおっしゃらないんですよ。</p> <p>どうなんでしょうね、そこらをお手伝いできたら、いいんじゃないかなと思うんですけど。</p>
D委員	<p>家庭の方に問題があって、学校に影響しているという子どもたちもいてるので、別々にするんじゃないんです。先生方が家庭に望むこと、また家庭が学校に望むことがありますので、もちろん、一緒にやっていくということですけど。</p>
E委員	<p>家庭から、子どもが崩壊していくような形になって、家庭が崩壊しておかしくなるから、家庭を何とかしようと。</p>
D委員	<p>いまは、何でもかんでも、学校の方に持っていかれる。家庭、地域の方たちもね。学校は学習する場で、教育していく場だと思います。家庭はしつけ、家庭でやれることを家庭でしていくということで、家庭教育を、もう一度見直していったらいいかなと思ったんです。</p>

E 委員	<p>私がいうのは、先生方のいいたいことはこうなんです。この辺をこうしていただいたら助かるんですとか。</p>
D 委員	<p>だから、お互いに、そういうことをコーディネートしていくのが、この会かなと、私は思いました。</p>
E 委員	<p>私たちが定めたものを無理やり学校に押し付けると、学校では有難た迷惑やということがあるんじゃないかと。</p>
D 委員	<p>もちろん学校には押し付けない。教育に対してものを言うのではなく、家庭でしっかり子どもを育てていけたら、学校に行った時の子どもたちも、ちゃんと教育を受けていけると思います。</p>
E 委員	<p>そういう意味なら分かります。</p>
議長	<p>それぞれ見識のある意見で、相対立しているような感じは表面的にはするんですが、根っこは一緒のところだと思うんです。こういう論議をこれから一年間進めていけて、また行政の方も聞いていただいていますので。いまの意見を聞かれて、いかがでしょうか。</p>
C 委員	<p>E 委員がおっしゃったこと、学校の先生が、これをやってほしい。本来は家でやるべきものを学校に、何か、自分の子どもに問題が起こった場合、何でも、学校が何とかしてくれるのを期待しているような感じがすごくしてたんです、私は。そうすると、学校の先生の負担がどんどん大きくなってくる。本来、学校がやらなければならないことという大きなものは、絶対これは他では出来ない、学校でないと出来ないことがあると思うんです。例えば、教育ですよ。それと、家では出来ない、集団の中で生活すること、その二つに、極端に言えば絞ることも大事なかなと思うんです。D 委員がおっしゃったように家庭教育というのも、子どもの教育の基本になるんだけど、そこに外部から関与するというのは、すごくやり方が難しい、いろんな考え方があって、それを分かりつつ、学校で、どの子どものびのびと生きていけるようにしていくという方法が、私は分からないんです。だから、家庭教育は大事だというのは繰り返し言われているが、じゃ、具体的に、外部から、それを、どうやってフォローするんだということになると、例えば、子どもの命と身体を守るということで、児童虐待の体制がだんだん整ってきたと思うんです。そういう、行政とか、国とか、市とかが出来るとは、まず、そういう組織というか、システムを作ることから始まる。そこから中に踏み込んでいくというのは、これは難しいことで、あまりそこに重点を置くと、今度は、極端に言えば、強制になりかねない。それは、どうしても避けなければいけないことだし、でも、やっぱり、子どもを守るということも大事だし、だから、学校が出来ると</p>

<p>議長</p>	<p>とと、家庭が出来るということを、双方の側がしっかりと認識して、冷たいようでも、これはいやなんですというようなことが、フランクに言えるような場をつくるというのが、私は、ここの委員の会じゃないかと思っています。</p> <p>ありがとうございます。この論議を続けていけたら、核心の部分だと思ふし、本当に、この委員の会での論議が、居場所の問題もやったな、校長さんのSOSからスタートしていったのが一昨年なんです。先程、E委員さんの話について、一昨年は、ありのままの形の学校現場の様子を、当時の委員が発せられて、なら、学校教育現場という形からスタートしたこともあったりで、実は行ったり来たりしているんですが、何かございますか。</p>
<p>A委員</p>	<p>大きなテーマが「学校・地域・家庭をつなぐ社会教育のあり方」として、家庭教育とか、学校教育のあり方について、それぞれ役目を果たしていこうとして話が出たと思うんですが、その次に、間に挟まったのが地域ですね。たぶん、家庭教育もなかなかうまくいかない、学校・教育現場もとても厳しい状況ということで、やはり地域の必要性が言われてきたんだと思うんです。今までも、場づくり、システムづくりということで、今までもやってきたんですが、この地域というのを、どうしても地縁組織とか、そういうところにとらわれがちだと思うんです。川西の中で、地域でも一生懸命、つなぐ活動をしている方が沢山いらっしゃる。それとともに、専門性をもって活動しているNPOであったり、任意団体だとか、たくさんいらっしゃる。そういうところが、各つながりをもつことが必要であると思います。例えば、学校に子どもが行かなくなった時とか、親に問題があるとかという時に、教育委員会の中でも、教育情報センターであるとか、青少年問題を考えてくださる所もいろいろありますし、また、こども部の方でも、子育て支援であったり、こども・若者政策とか、民間の団体もあるよというところを、そこがうまくつながるようにする、そういうことをしていただけるようにするのが、そういうシステムを考えていかなければならないと思いました。</p> <p>それともう一つ、学校、地域、家庭をつなぐ社会教育のあり方となっているが、もう少し上の世代の方もたくさん活動なさってるんです。そのところを、学校とか、子どもとかということではなくても上手につなげていくことをいま、すごく努力なさっているんですが、そのへんの方の活躍の場とかを決めながら考えていけたらなとしてるんですけどね。</p> <p>どうしても、公共施設をちょっと預らせていただいとすると、みんな利用者の方は、自分たちのそれぞれの活動に一生懸命なんです。たぶん、それは公民館活動でもそうだと思うんですが、そういうところが力になっている、地域でコミュニティーが繋がって力</p>

	<p>になっていくふうに、私どもも、どうしたらいいのかなということ を考えられたらいいなと思いますけれど。</p>
C委員	<p>いろんな市内の団体とかおっしゃったけど、その中に、例えば、 20代とか、30代の若い方のもあるんですか。</p>
A委員	<p>私が知っているところでは、例えば、引きこもりの方を支援する ような相談もしたり、聞いたりとか、そういう方たちのお父さん、 お母さんが集まれるような、親の会的な集まり、あとは、任意団体 ですけど、広い意味でNPO活動というのがありますね。</p>
C委員	<p>そういう活動をされているのは大学生の方が多いんですか。</p>
A委員	<p>いや、大人の方なんです。それとともに、演劇活動であったり、 そんなところで、市内の地域を中心に活動されている20代、30 代のグループもありますね。そのあたりのところは教育委員会や市の 職員の方もよくご存知だと思いますけれど、そのへんで、そういう 力が必要だということで、教育委員会やら市長部局の中でも一生懸命 やっておられます。</p>
C委員	<p>私は、川西ユネスコ協会に所属しているんですが、どこの団体も そうかもしれないんですが、だんだんメンバーが高齢化してくるん です。ユネスコの全国組織としては、いわゆるユースといって、 若い方のユネスコの団体があるんですね。川西でも、作ろうかとい う話があったんですが、なかなか若い方が、自分の生活が非常に忙 しいんです。みんな、大学生であったりして。若い方の独特の特徴 というか、どんどん年齢が上にいくと、大学生であった方が就職し たりして活動が出来ないとか、そういうこともあるんですけども。奈 良なんかだと、ユースの組織が非常にしっかりして、若い方の発信 力が物凄いです。例えば、子どもキャンプに、お世話で行って行 ったり、各学校に行って、ユネスコの大きな目標である「平和の構 築」についての勉強会を、総合学習の時間にしてるんです。私のよ うな年齢の者がいくよりは、若い大学生が行くほうが、ずっと、子 どもがよく聞けらしいんです。お兄さん、お姉さんみたいな形で。 やはり、若い人の力って凄いなあと、いつも奈良の方と交流させて いただいた時に思うんですが、なかなかそういう年代の方と知り合 えないというか、どういうふうに声をかけたらいいいのかなと思っ ていたところに、昨年、川西ユネスコにも30歳ぐらいの若い人 が入ってくださって、その方が、一人であちらこちらのユースの交 流会に出たりとかしてくださっているんですが、やっぱり、なか なか、それが広がっていかなくて、何かフォローの仕方があるのか なと思っています。</p>

A委員	<p>ご相談で、20代から30代の子どもさん、何かしたいとのご相談は、受けることはあります。起業ということもありますね。仕事を創っていくということと、社会の人間づくりをしたいという、両方がありますけど。</p>
C委員	<p>いままで、社会教育委員の会で、何回か、いまお話のようなことをしてきたんですが、生涯学習センター、若干、シルバーの方のそういうのがあり、学校教育がありということで、どうも、20代・30代のところの社会教育に対するアプローチというのが、ちょっと、抜けかかっていたのかなと、いま、いろいろ聞いていて思ったところですよ。</p>
副議長	<p>共通の認識が薄れてきているのを一番感じるところです。だから、家庭によって、躰の違いがあるので、学校に集まってきたときに、その差が大きくて、なかなか学校で、一つのまとまりとして、学校教育を続けていくのに支障が出たりというところが、大きくなっているんだろうなと思います。その違いをどうするんやという、うちの子は、ちょっとうまく、社会と学校でとか、つなげていくことができないなど、ご家庭の方、ご自身が感じられて理解できている方と、家庭自身が、自分は、そういうことはない、ちゃんと出来ていると思いつつながら、社会全体でみると、ちょっと、共通の認識として、ちょっと違う面もあるなという、両方の側面があるのかなと思います。先程、児童虐待の話が出ましたが、それも、周りの方が気をつけて、声をかけていくということと同じように、家庭の中でも、どうなんかなという時には、周りの方というか、地域が、やはり気をつけてやっていくことが必要になっていくんやろなと感じています。</p> <p>自分が悩みをかかえた時に、私はどこに行ったらいいのという場所がここですよというのを作っておいて、その中間支援組織だとかといっても、市民には、分かりにくいと思いますので、もっと、分かりやすい、例えば「ご相談口」とか、「何でもどうぞ」とか、本当に困ったときには、とりあえずそこへ行って、こういうことで困っているんですといったら、そこが、児童委員さんが近くにいるから行ってみなさいとか、公民館というところで活動があるので、こういうところへ行ったらどうですかとか、そういう仕分けをしてくれる、市民が、最初のとっかかりになる窓口のところを発信するというんですか、伝えるというところがあるといいのかなと、いま、お話を聞きながら感じていました。</p>
議長	<p>F委員さん、事前に、資料をいただいておりますので、それを含めてご意見をお願いいたします。</p>

F 委員	<p>私は、いま、聴きプロ養成講座を受講してまして、それは人の話を聞こうと、相手を、一人の人を認めて受け止めるという方法を勉強しているんですが、これは、市内の中学校や小学校のPTAの講習会とかでも行われてます。そこでは聴き方教室という形で、聴くというのはどういうことだろうというのを勉強しています。先程のお話にもあったんですが、みんな違いがあって、私なんかもそうですけど、同じ考えをしないといけないというか、世間一般の常識をそれに合わせないといけないと思って、みんな、教え込まれてきたと思うんですけど、人それぞれに違いがあって、それはそれでいいんだよというのを認めるという勉強が必要かなと思って、一人、学校で浮いている子がいたら、その子がおかしいと、つい思ってしまいがちですけど、その子にも、考えがあったり、想いがあったりするんで、まず、その子はそういう考えるんだなと、受け止めてあげることが大事だと思うし、否定ではなく、まず認めていくという勉強をここで出来たらいいなと思って、この資料を持ってきました。</p>
議長	<p>そうしますと、テーマを決めるにあたって、それぞれの委員さんの考え方、ほとんどすべて出尽くしたんじゃないかなと思うんですけど。</p> <p>私も7年目になるんですが、ほとんど論じてきたんかなと、各先輩の社会教育委員の皆さん方で論じてきましたけど、今の時点の、過去は過去、今は今と、つながっている部分もあるんだけど、委員さんによって、認識やら、捉え方やら、それぞれ違いは認めていかなければいけない部分やらで、論ずるは簡単なんですけど、いま出てきました川西市の今の現状の部分が、私なりには整理できたかなという部分はあります。学校教育で特に子どもたちが多く学んでいる学校教育に期待する部分はものすごく大きいし、本当に頑張っしてほしいという思いを、何とか違った角度から支援をしていきたいなという思い、そして事実の部分を知っていきたい。D委員さんが言われたように、100%信頼されてますので、後は、その周りを、しっかりと、社会教育の部分で、一つひとつ確認していくことが、まず大切ではないかなと、学校応援団もいらっしゃいますし、斜めで見える部分もありますし、ただ、新しい分野で、Aさんがいわれた中間支援組織、あるいは前回、県教委の過去2年間の社会教育委員の会の討議報告書をお渡ししている中で、県の方が、教育プラットフォームの活用というようなことで、地域の捉え方やら、中間支援組織なんかですね、あるいは地域教育コーディネーター、そういうところを全部ひっくるめた形でのプラットフォームづくりということで、問題提起されてます。これを見ますと、川西市の教育の構成物の中にきちんと同じような形で出されております。</p> <p>中間支援組織の問題やら、コーディネーター、学校支援本部を含めて、いろんな活動というのが、みな網羅された形の中に発言がご</p>

事務局	<p>ございました。</p> <p>一 通り委員のご発言が終わりましたので、部長がお見えになりましたので、個々の、4つほど意見を述べましたんですけど、ご挨拶を兼ねましてお願いいたします。</p> <p>一 教育振興部長から、挨拶並びに教育委員会だより「笑顔ときめき」・教育推進情報「花ばたけ」・「川西市青少年センターだより」により詳細な説明がなされた 一</p> <p>いまご報告したいいくつかは、社会教育、生涯学習の視点でのつながりをご紹介してもらいましたが、事務局としましては、生まれてから命を閉じるまでの中で、いかに応援して、子どもたちとか、地域の中に応援できるということで、今後取り組んでまいりたいと思っておりますので、この会議で、またテーマが決まりましたら、それを受けまして、いろいろご協議いただいたことを踏まえて取り組んでまいりたいと思います。</p>
E 委員	<p>先程の、F 委員さんの違いを認めるということについて、最初から違いを認めてしまって、“そうよそうよ、あなたそうよ”といったら、世の中、無茶苦茶になると思うんです。世阿弥の言葉に「守破離」という言葉がある。まず、その基本をしっかりと身に付けていただいたうえで違いを認める。違いを認めて聞いてあげて、この部分はこうこうなのよというように正しい方向を教えてあげて、その子を伸ばしていつてあげるという方法なのですか。</p> <p>何でもあなたは正しい、人間はみな違うのだから、あなたの言うことも正しいと言い出したら、世の中、みんな無茶苦茶になってしまっ、どうにもならなくなると思うのです。正しいことは正しい、だけど、このへんは違うんだよというようなことを、基本をきっちり教えてあげないと、私は、世の中が無茶苦茶になると思うのですよ。何をするにしても、習い事をするにしても、必ず、基本があって、基本を十二分に身に付けて、ちょっとこれは違うなというので、それを破っていく、最終的に離れていくというようなことはいいと思うんです。</p>
F 委員	<p>私の説明が上手く出来なかったんですが、誰でも、全てが、あなたが正しいと言ってしまえば、本当に、いま言われたとおり、バラバラになると思うんです。</p> <p>自分の思いも聴いてもらえると、人の話も聴けると思うので、いろんな考えがあって、それを、その人はそう思ったんだ、私はこう思ったんだよというの、自分の思いも伝えられるようになってくると思うし、今まで、学校はティーチングというか、教えるばかりでしたが、みんな、それぞれ、個々に答えが、みんなあると思うんですね。それを引き出してやって、まとめていく。でも、みんな</p>

<p>議長</p>	<p>が好き放題していいという意味では決してなくて、まず、その人の思いもきちんと受け止めてあげましょうというようなことなんです。</p> <p>私は学校教育が非常に長かったもので、子どもに関わっていくときに、この視点というのは、ちょっと言葉が踊ってしまう部分もあるんですが、一人ひとりを尊重していこうとしていかなければならないという大原則があって、一人ひとりをしっかり見つめていこうと、その違いを認めていい部分と悪い部分。子どもの見方そのものに捉われていきますし、私はやはり、違いは認めるというか、基本的なものの考え方の中で、いいことと悪いことがある。ところが、何が正しいかというところで、一人ひとりの考え方がものすごく違ってくると思うんです。それが、下手をすると、学校での子どものかかわりの部分で、地域社会やら、保護者から、一部誤解を生んだり、不信を生んだり、そこを本当に論じられてないから、学校現場も実は混乱をしているという部分があるのかなと思うんですよ。</p>
<p>副議長</p>	<p>子どもたちの気持ちを認めることと、子どもたちがしている行動の間違いを正すこととは、ちょっと違うことだと思うんです。気持ちは、こう思ったとか、ちょっと、それはどう思うようなことでも、ある程度、認めるというよりも受け止めるというんですかね、認めるというのは、どちらかというところ、その子の言葉を受け止める、受け止めた上で、やっぱり、そう思ったら、他の子はどう思うかなとか、要するに、そこを受け止めることが、まず、大事ですというのが、いまのお話のことかなと思ってます。</p> <p>あと、E委員が言われたように、違っているものは、ちゃんと一言わなければならないということは、確かにあるんじゃないかと思えます。両方、どちらも必要な部分ではあるんじゃないかと思えます。</p>
<p>議長</p>	<p>この委員の会で、それぞれの委員さんが専門的に経験の中から論議していただいております。例えば、不登校の問題、ニートの問題、虐待の問題等、今の若者の抱えている大きな問題だと思っておるんです。ところが、捉え方や、そこを本当に専門的に分析しながら対応していかないと、実は発生してしまう原因の一因にもなっているんです。ここの捉え方によっては。その点どうでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>小学校の教材に、よく似たところがあったと思い出します。</p> <p>「時を守ろう」というような教材だったと思います。低学年の教材でした。</p> <p>「チャイムが鳴ったら、きちんとクラスに入って座るんだよ」と、これは本当にどの学校も共通した認識のところだと思います。ある時にA子ちゃんが、休み時間の後、帰ってくる時に遅れてき</p>

	<p>た。先生が“ちゃんと時間を守ろうと言ったでしょ”という話で対応する中で、A子ちゃんが黙ってしまった。A子ちゃんは、実は、休み時間に怪我をした子がいて、この怪我した子どもに一生懸命手当てをしていた。その手当てが、例えば、保健室へ連れて行くとか、そういう話であったように思いましたが、彼女が先生にそれを十分に説明できなかった。その説明できないのは、守るべきことを守っていなかったという彼女自身の負い目と、それから、先生自身において、守るべきことは守らなきゃいけないだろうと、ほとんど決められた形の中の問いに、A子ちゃんが何もいえなかったというような教材がありました。いま、お話の中のことは、確かに守らなければいけない、これは、私も大賛成なんですけども、やはりそこには、個々の事情なりというものが裏に隠れているという部分を、必ず、指導者や、もしくはそのような立場の人間が、そういう部分を認識しておかないと。それを前面に出してしまうと、伝える方も伝えられなくなってしまったり、一番怖いのは、そういう一面的な正義とか、正しいものが、ぐっと前に出てくると、その影で、どうしても隠れて見えなくなってしまうものがあるんじゃないのかなと思います。その教材では、多分、そういうことを子どもたちも教師も含めて学ぶような教材だったと思います。結局、その教材では答えは出ていなかったように思います。つまり、A子ちゃんが遅れてよかったのか、悪かったのか。遅れてよかったんだよとは決して書かれていなかったように思います。やはり、そこではA子ちゃんがとった行動について、指導する側、それから周りのクラスのみんなも理解を深めるというのが大事じゃないかなという部分があったと思うんです。</p> <p>先程のE委員のおっしゃることは共感します。そりゃ、ばらばらになったら学校教育は出来ません。でも、その中で、一本、これだけで突っ走るんじゃなくて、個々の事情を丁寧に見て行って、共通理解をもつということが、学校教育で、私なりの学級経営の中で、努めてきたことかなと思っています。</p> <p>E委員さんがおっしゃった正しいことを正しいふうに導くというのも分かりますし、受け入れるというのも分かります。それは、副議長さんと、いま、先生がおっしゃったことが前提の両方のことかなと思って聞いていました。</p> <p>そういう場面というのはたくさん出てくると思うんです。先生が知らないうちに、約束は守らなアカンよと注意して、後で、そういうことがあったと。大事なのは、その後のフォローかな。その時にかける言葉がどうだったとか、こうだったとかではなくて、世の中というのは、自分がした、善意をもった行為を否定されることって、大きくなればなるほど増えてくるわけで、でも、その中でも、それがなった時でも、その後に家族だったりとか、友達だったりとか</p>
D委員	
副議長	

	<p>か、先生だったりとかのフォローがあって、自分は先生に怒られてしまったけど、友達はちゃんと分かってくれていると、それは友達にはちゃんと理解してもらって、助かったという言葉があったということで、その子は元気になると思うんですね。その一面だけで、先生が、その行動を起こしたということが、いいとか悪いとかという判断にならないでほしいなというのが、いまお話をお聞きしての感想です。</p>
<p>議長</p>	<p>今の論議をとおして、共通の教育目標といたしますか、社会、生涯学習等においても、全て、一体、どのような人間に育てていくのか、育んでいくのかという図ではなくて、基本的な違いという、一つの問題提起の中から、人の見方の部分を、しっかり、それぞれ認識をしていかなければいけないということを改めて確認して、そして、自分の所属している諸団体等においても、その部分を、常に、どういう育みをしていこうかと、諸団体が動いていっしょやるということ。</p> <p>D委員さんはミュージカル関係などで頑張っておられますが、2歳から80歳代の方までかかわった経験があるというようなことを聞いたことがあるんですけど。</p>
<p>D委員</p>	<p>お互いに、教えあうというか、私たちのやっているミュージカルの中では、これが正しいとかというのではなくて、大人も子どもに教えられるし、もちろん、大人は子どもに教えていくけども、子どもから教えられるほうが多かったかもしれないけれど、先に覚えるのでね。そんな関係で、縦の関係が出来たなと思っています。子どもたちは、他の学校の子どもたちと友達になって、横の関係も広がって、ですけど。いまの論議のところに関しては、上手にいえませんが、お互いに認め合って、お互いに教えあって、同じ一つの目標に、この場合は、ミュージカルを舞台で発表するという、作り上げるという、一つの目標に向かって、みんなで協力してやっていけました。</p>
<p>議長</p>	<p>各委員さんからだされている部分で、中身を抽出したと思います。</p> <p>F委員さん、何かございますか。</p>
<p>F委員</p>	<p>きちっとしたルールは守らないといけないと思うんですけども、一人ひとりが自分の思いを相手に伝えられるように育てられたらなと思って、先程、先生が言われたお話のA子ちゃんが遅れたことを言えなかったというのも、この聴き方教室をいままで習っていたんですが、「きく」には三つの「きく」があって、「聞く」と「聴く」と「訊く」があって、つい、お母さんは、子どもが帰ってきたら、“今日、どうだった”と喋りかけているつもりなんですけれど</p>

	<p>ども、それは「訊く」であって、自分のききたいことを訊ねているばかりで、子どもが言いたいことも言わないで、次々自分が訊ねたいことばかりを訊いて、子どもが自分の思いをきけるように出来てないことが多いなと感じて、友達と会話している時でも、つい、人の会話をとることが多いですね。最後まで、人の話をきく、人に自分の思いを伝えられる、相手もきけるというようなことをしていると、このA子ちゃんも、きちっと、大人がきいてくれるんだと思ったら、その場で、すぐ言えるようになっていたかもわからないし、きちっと、自分を受け止めてもらえる社会があれば、自分の思いをきちっと伝えられるようになっていくのではないかなと思って、そういう習慣が学べたらいいかなと思って、提案させていただきました。</p> <p>議長</p> <p>社会教育の分野では、これから大事な視点だと思います。それで、前半の方にバックしていきたいと思いますが、各委員さんの発言の中で、こども・若者ですね、川西市での実態の部分での期待と要望と、何とか頑張っていかなければいけないという指摘が出たと思うんですね。私は、個人的ですけど、この委員の会で論じていきたいのは、何で川西はこういう若者やら、子どもたちの居場所の部分やら、SOSの部分やら、成人、少年を含めたところの場がないのやと、よく問われてしまうんですよ。よくよく考えてみれば、子どもの居場所、若者の居場所、施策としては結構されていますし、本当に、充実してきつつあると思うんですが、何とかならないのかなという期待がちょっと出てきたんですけれど。</p> <p>そこらへん、前回、こども部から、施策としてお話を聞いたり、情報をいただいております。抽象的な質問の仕方なんですけど、どうでしょうか、教えていただけましたら。</p>
事務局	<p>前回もお話をさせてもらったと思うんですが、本年度から、従来の青少年支援課の課名が変わりまして、青少年からこども・若者に変った背景には、国の法律が出来まして、こども・若者ということを支援していこうというような枠組みが出来たというのがありますけども、我々としまして、従来、青少年といえば、一般的には義務教育までか、あえて高校生までかなと思っておりましたが、よく見れば、それ以上の若者であっても難しい問題を抱えているところも多い。今まで、スポットライトが当たっていなかったところに当てていこうということを考え方として、こういうふうな体制をとって、これから進めていこうとしているところでございます。具体的には、まず、いま議長がおっしゃったように川西の若者がどのようなものの考え方とか、不安、毎日の生活の様子なんかを、どのようなものなのかというのを、まず把握して、その中で、この部分に支援がいるんだなということをつかんだうえで、必要な支援を、市役所をはじめ各種団体等でネットワークを作るような形</p>

	<p>でしていきたい。当然ですね、若者のニーズに基づいた支援を考えていくというんですが、全ての若者にする支援とともに、引きこもりとか、ニートとかという社会的な生活するうえで困難を有する若者に対する支援というものの、大きく2本建てていきたいと考えております。そういうことで、いろんな情報なりを収集しているところであり、今年度中には、そこらへんをもとに、今後の子ども・若者支援の方向性なんかを掴んでいきたいなど、そういうふうに来年度あたりには、子ども・若者を支援するプラン、川西だけのプランということを考えていきたい。その他ですけれど、議長がおっしゃいました、若者の居場所なんかも、必要に応じたという形で整備していこうかなというふうに考えているところでございます。</p>
議長	<p>ありがとうございます。委員さんの方で何かございませんか。</p>
副議長	<p>具体的に、何か進んでいるものはありますか。</p>
事務局	<p>いま、取っ掛かりとしまして、若者の中でも、まず高校生に対する意識実態調査を、市内、それから猪名川町の公立高校のご協力を得て進めるべく、質問文の作成ですとか、学校の調整とか、7月中には、そのへんの調査をしていきたいというふうに考えております。</p> <p>また、夏、秋におきまして、紙に調査だけではなく、若者の声を生で聴くような場面、例えば、トークイベントですとか、実際に、若者が、例えば、畑などを耕し、汗を流して、労働の意義や意欲なんかを感じるようなそういう企画なんかも用意しようとしておりまして、そういう中で、若者の直の声を聴いていきたいなどということ準備しているところでございます。</p>
D委員	<p>高校生に聴かれる調査の内容は紙面上になると思いますが、大体、どんな内容を聴かれるんですか。</p>
事務局	<p>聴く内容でございますが、今、考えておりますのは、一つは、高校生が学校以外、主に家庭で、どのような生活の状況をしているのか。特に、規則正しい生活があるのかなんかという点を中心に行っているのと。あと、高校生の家族とか、友人など、人間関係の部分、現実的な人間関係、それからネット上などにおける仮想的な人間関係というんですが、そうした人間関係の状況、三つ目が、高校生の将来の職業観、仕事に対する意識、働く気持ちが強いのかどうかという点。それから最後ですが、高校生が引きこもりなんかには、どの程度、近い気持ち、例えば、自分の気持ちがくじけた場合などにそっちへ陥ってしまうことがどの程度予想されるのかなという点、大きく四つの点を中心に聴こうと思っております。</p>

議長	<p>これに絡んでも、これ以外でも結構ですので、何かございませんか。</p>
E委員	<p>悩み相談室というか、例えば、“私、実は自殺しようと思っている”というような、この頃、そういうことまであるわけで、そういうことまで入っていくわけですか。</p>
事務局	<p>この紙の調査では、そこまで突っ込めるかどうかはあまり想定してなくて、そういう深刻なことがありました場合には、個別に対応していく必要があるのかなと思っております。将来、支援していくという中におきましては、そこらへんも含めた相談を受けれるような支援体制がいるのかなと考えております。</p>
議長	<p>今の質問で、こども部で答えていただいておりますが、例えば、教育支援室でも情報センターという組織をもっておられますし、教育委員会サイドのそのような若者に対する、特に、学童・児童になろうかと思いますが、SOSを含めての支援の組織的なものをご説明いただけたらありがたいと思います。</p>
事務局	<p>教育支援室の方では、教育情報センターで相談部門というのを持っております。こちらには教育相談と子どもの悩み相談という2本の電話が入っております。教育相談においては、主に、保護者の皆さんからの子育てに関する悩みを承ります。その内容によりましては、関係機関、他の部署のこども部等に連絡調整し、対応を図ります。相談部門には8人の臨床心理士等がおられて、実際にお会いして、アドバイス等の必要がありましたら、調整を図り、お会いできるような対応も行っております。また、子どもの悩み相談というものは、原則、子ども自身が電話をかけてくるというもので、先日、全ての児童・生徒に小さなカードを、学校を通して配りました。実際に、子ども自身が悩んでいることがあれば聴きます。子どもが対象の電話相談です。つまり、保護者の方から、子どもからという二通りの相談の形があるということです。</p>
議長	<p>他に、私も絡んでます人権推進の子どもオンブズパーソンの方も、やはり、命を絡めた形の、子どもの人権という視点の部分での相談部分も、臨床心理を含めておりますし、オンブズパーソン、弁護士も含めて、毎週、来ていただいておりますので、そういう組織もありますので、結構、相談機能やらは、確かな評価されている部分もあり、充実しているかなと思っておりますけど。そういう、こう、逆に受け入れたい場所ですね、そういう民間部分等に頼らなければいけないという部分の抽出というのが、たぶん、先程いわれたニートの問題やら、不登校やら、居場所というか、そういう部分の支援組織の部分が、求められているのかなと、個人的には、大きな</p>

	<p>課題かなというふうに感じております。</p> <p>そうしますと、本当に中身に入ってしまったって、論議をしていくうえで、一応、サブ的なところの部分だけは、とりあえず、同じ論議を進めていきたいと思いますが、いかがいたしましょうか。</p> <p>私は、個人的に思いますのは、今のように社会教育諸団体の代表の皆さん、学識経験者を含めての課題と社会教育施設、今日は、公民館やら、教育機関もありますけど、そこらへんとの課題といいですか、川西市における課題、これは、民間支援のベテランの方もおられますので、そういう組織との連携の仕方のへんに、今回は絞られていったらどうかなと思うんですが。繰り返しになりますが、社会教育施設、あるいは社会教育関係団体、民間支援組織ですね、大人の部分になりますが。そこらの課題、そして、学校教育もできたら絡めていきたいと思います。今回は、そこに焦点を合わせて、川西の社会教育施設、あるいは関係諸団体の川西市における課題について論じていけたらというようにまとめさせていただきましたんですけど、いかがでしょうか。</p>
A委員	<p>結構だと思います。</p> <p>いろんな課題として、行政の施設、民間の団体の中で、どのように協働していくかという、まさに、一番、川西の中でも大きなところだと思いますので、昨年度に、参画と協働まちのづくり推進条例が出来ておりますので、結構かと思います。</p>
議長	<p>今日のように委員同士の論議で問題提起していただいて、また事務局の方からアドバイスやご意見いただくという形式で進めて、基本的には、そういう運営の仕方では今年はいきたいなと思っております。たぶん、事務局サイドは、教育委員会があったり、関係諸団体の審議会があったり、いろいろあろうかと思いますが、今日は、我々、一人ひとりが責任を持った、独任制ということをごくいいましたが、その意見は尊重する形で進めていけたらというように思っております。</p>
D委員	<p>レフネックで15歳の子どもが応募されたようですが、どうになりましたか。</p>
事務局	<p>抽選の結果、当選されて、第1回の講義に来られてます。</p>
議長	<p>15歳以下でも、中学生までの生徒については、どうなんですか。</p>
事務局	<p>レフネックでは、青少年も受け入れ、異世代の交流も深めていくというのも一つのテーマになっておりますので、青少年も受け入れさせていただきます。</p>

<p>議長</p>	<p>年齢制限は、設けておりません。</p> <p>社会教育機関の方がお見えになっておりますので、お話しやら、我々、委員の方にアドバイスや報告等がありましたら、お願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>公民館は、まさしく社会教育委員の会でお話いただいているとおり、集い、学び、集うという場で、市民の方が、そこでお互いが学ぶということとで、そこから横の繋がりがでてくるわけでございます。</p> <p>いま、お話しされてたわけでございますけど、金太郎のミュージカルも年齢差なしでのお集まりですので、まさしく、これも見方をかえれば、一つの講座というか、授業の一つとなるんじゃないかと思えます。</p> <p>中央公民館では高齢者大学ということで、60歳以上の方でございしますが、対象にした講座を行っております。昭和59年から開催しております、27年経つ講座でございますけど、今年、全体で267名が受講されております。それを1年間かけて対応していくというところでございます。この講座も、結構、リピーターの方が多くて、先程お話が出たんですけども、これは60歳以上の講座でございます。他の講座では、いわゆる30代、40代の方の参加が非常に少なく、そのあたりが、社会教育の現場としては課題であるというふうに思っております。それと、家庭教育の話も出たわけでございますけれども、子育てというんですか、親子の講座ということで、子ども同士の触れ合いとか、親同士のママ友というんですか、触れ合いになるような講座もやっておるんですけども、如何せん、専門的な知識というんですか、対応が出来ておりません。新しくこども部が出来ておりますので、そのあたりはこども部が中心になってやっていただける事になると思っております。</p> <p>次回、お話ということですが、社会教育施設としてのあり方というような形でご意見をいただければありがたいと思っております。</p>
<p>D委員</p>	<p>時間をいただき、ありがとうございます。皆さん、お世話になります。</p> <p>川西市民の創作ミュージカル「川西の金太郎」、120人の応募をいただきました。5月8日にオーディションしまして、ほとんど合格なんですけど、100人の出演が決まりました。後の20人は、金太郎とか、美女丸、幸寿丸に応募してきた子どもで、金太郎しかいやという子、他の村人をやってと回したら、そうしたら出ないという子が20人ぐらいいて、100人の出演者が決まりました。その中で、人数が揃ってないところがあるので、2次募集のチ</p>

	<p>ラシを皆さんに配らせていただきました。ご協力を、よろしくお願いいたします。</p> <p>今回は、川西の金太郎オーケストラとして、ボランティアオーケストラも募りました。いま、自衛隊の音楽隊の方8名を含めて18人、バイオリンとかチェロとか入れて18人の応募があり、オーケストラが結成されました。自衛隊の音楽隊の方は金管楽器、木管楽器なので、弦楽器の方をもう少し欲しいなと思っております。大体、25名から30名ぐらいを予定しています。いま応募いただいた方で、オーケストラの結成記念として、ロビーコンサートを同時開催しようとして計画しておりますので、お世話になりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>10月15日・16日です。みなさん、よろしくお願いいたします。</p> <p>委員さんが、こういう形で活動されている輪が広がっていくというのは本当にいいことです。金太郎の役でなかったら、僕、私、引っ込みますというのが、話題性を帯びる問題提起をされたんじゃないかなと思います。</p> <p>他に、委員さんの方でございませんでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(発言なし)</p>
<p>議長</p>	<p>一応、議題のところ、お話していただいて、次回については、先程、お話しましたように、社会教育施設の課題やら、そういうところも事務局の方から、ちょっとお話をいただきましたので、後は、委員同士の中で先程のような形の中で事務局の方に返していくという形にしたいと思います。それぞれの活動の場面で、社会的施設を使わなくても自分ところでやってらっしゃる中間支援、あるいはユネスコ協会なども活動されてますし、また公民館やら、ボランティア活動などでも活動されてますし、久代には、演劇集団があって、若者の発信で、民間で、力いっぱい頑張ってるって教育委員会やら、市も支援されているという部分もあり、もっともっと知っていききたいなというような活動をされています。</p> <p>先程来、委員さんの方から、いろいろと関わっていることを発信していただいて、これを共有しながら、この共有の情報発信の仕方というのが難しいのですが、そこらへんも、事務局など、あるいは関係機関等との連携の中で、何とか市民の皆さんやら、あるいは学校教育現場との連携、情報の共有、されている部分はあろうかと思えますけど、そこらへんの充実を図っていくことが大切ではなからうかなと。そういうことも大事になって、我々自身が、現状を知らないとかんという部分もありますし、情報発信をいただきまして、ありがとうございました。</p> <p>そうしますと、議題を終わりますと、その他のところで、事務局の方で何かありますでしょうか。</p>

事務局	<p>一 事務局から、6月8日に開催される「阪神北地区社会教育委員協議会総会」の出欠について確認された 一</p>
議長	<p>他に、事務局の方で、何かございませんか。</p>
事務局	<p>もう一点、お手元に「川西市郷土館」のリーフレットをお配りしておりますが、もし、よろしければ、来月の社会教育委員の会を、昨年2月にオープンいたしました「アトリエ平通」の会議室を使っていたらと思っております。</p> <p>ご存知のとおり、郷土館には四つの施設がございます。美術館のミューゼ・レスポアールとアトリエ平通と、国登録有形文化財の平賀邸、平安邸の四つの施設がございまして、入館者が年間5千人前後で、あまり、大きな伸びはしていないのですが、ここについても、一応、社会教育施設ですので、市民の方のご意見、どういう活用があるのか、論じていただけたらと思っております。社会教育室の方では国登録有形文化財ということで、文化財として保存・顕彰して、見学施設という形でしかやってなかったんですけど、社会教育で所管しておりました文化・芸術については、違う部署に移ったのですが、アトリエ平通なんかは、まさに文化・芸術を振興する場所でもございますので、何かいいご意見なりがありましたら、社会教育施設の利用・活用の件の一つとして加えていただけたらと思います。いかがでしょうか。</p>
議長	<p>どうでしょうか、先程、3の議題のところでお話しましたように、テーマとして、社会教育施設云々、あるいは諸団体の分をお話をした根底の部分では、実は、この、今、室長から次回の会場で提起されています場所、郷土館の利用・活用については、いずれどこかで浮上しそうな問題になりそうだと思いますので、早めに、我々としても社会的施設という部分で、委員の皆様がたと論議をしていきたいと思っております。</p> <p>ただ今提案のありましたように、次回の会場、場所を郷土館で開催するという事で決定させていただいてよろしいですか。</p> <p style="text-align: center;">（「異議なし」の声あり）</p>
議長	<p>それでは、そのように決定させていただきます。</p> <p>他に、何かございませんか。</p> <p style="text-align: center;">（ 発言なし ）</p>
議長	<p>それでは、お忙しいところ、委員の皆さん、ご苦労さんでした。</p>

また、行政の皆さん、本当に、ご苦労様でした。ありがとうございました。
それでは、以上をもちまして、会議を終わらせていただきます。